

イノベーション 25 戦略会議

第 8 回 議 事 要 旨

日 時：平成 19 年 2 月 26 日（月） 17:15 ～ 17:45

場 所：総理官邸 2 階小ホール

1．開 会

2．議 事

（ 1 ）「イノベーション 25」中間とりまとめについて

（ 2 ）その他

3．閉 会

1．開会

2．議事

（ 1 ）「イノベーション 25」中間とりまとめについて

黒川座長より、資料 2 に基づき説明。

自画自賛になるかもしれませんが、非常によくまとまったと申し上げているのではないかと思います。

38 ページからは、こういうことが 20 年後に実現するということであれば、国民の人たちも大いに夢、明るさを持って、今日いろいろと活躍、活動できるのではないだろうかと思います。

社会イノベーションとしては、58 ページに道州制が書かれています。道州制も 20 年後に、1 つの新しい国のかたちとして、取り入れられる方向で検討されたことは、非常に意義あることではないかと思います。

イノベーション 25 中間とりまとめの興味深いところとして、高市大臣が特に思いを入れた 7 ページの「伊野辺（イノベ）家の 1 日」が非常にユニークではないかと思いますが、そういう意味でも、レポートとして、また内容的にもすばらしいものになっているのではないかと考えております。

中間とりまとめにございます科学技術、社会、人材のそれぞれのイノベーションを同時並行的に、速やかに政策課題に落としさせていただいて、強力に推進していただきたいということを是非お願いしたいと思います。

科学技術イノベーションについては、特に国際競争がますます激化をしていると思いますので、集中と選択が必要であるということで、国際競争力のある日本の得意技術について、重点的に日本がリーダーシップを取れる方向で、是非推進していただきたいと思います。

社会イノベーションについては、新しい働き方と、地域活性化を含めての道州制という問題に取り組んでいただきたい。

人材イノベーションについては、大学改革は当然のことながら、初等教育の、特に理数離れについての御配慮をお願いしたいと思います。いずれも長期ビジョンではありませんけれども、今すぐ手をつけていただかなければいけない問題でありますので、是非強力に、三位一体で進めていただくことをお願いしたいと思います。

日本学術会議としてまとめたものの肝を十分取り入れていただきまして、大変感謝をいたしております。

特に社会イノベーションであるとか人材イノベーション、すなわちイノベーションをつくり出す基盤というものが大事だということを盛んに言ってまいりましたので、大変ありがたいと思いました。

もう一つ、当然これは日本のイノベーション戦略のとりまとめではありませんけれども、世界に目を向けたものになっております。そういう点も大変ありがたいと思います。

感想でありますけれども、高市大臣及び黒川座長の思いが非常によくまとまっておりますし、この手の報告書にはまれな形なのではないかと思っておりますので、私もそれに加わらせていただいたことを大変うれしく思います。

なお、日本学術会議の会員や連携会員からいただいた提案は、まだまだ宝の山でございまして、これから活かしていこうと思っております。これが実際に政府のお力で実現することを心から祈っております。

今、日本だけではなくて、世界各国でイノベーションを話題にしようとしているのは、やはり全世界的に、ターゲティング的な産業政策はもはや古く、環境とか投資の仕方、インフラをどうつくっていくのかが重要だという認識に立っているからだと思います。

そういう意味で、我が国もこういうことに対して戦略を立てていくことは非常に重要なことだと思います。ただ、私の感想としては、高市大臣も5、6ページに書かれ

ていますように、確かに夢を語ることは重要だと思いますが、今の日本の閉塞感からもし出るとするならば、やはり闘う姿勢をある程度出さないと、国民の支持は得られないのではないかと思います。大臣も言ってくださっているので重複になりますけれども、この姿勢は非常に共感の持てるものでございます。

それから、当然ですけれども、25年後はどうなるのかと言っても、だれもわかりませんから、新しい革新的なことを起こすという環境をつくることが一番重要なことであって、ターゲット政策をやるんだったら、従来の官庁でも今やっているわけですから、「イノベーション」といって始めたこの会議で、そこにこだわるのはよくないということです。

もう一つは、思い切ったことをやるという観点から最後に私が言いたいのは、例えば政府のお金を使わないで、NPOが集まって国家的課題の解決にお金を出すというような、今まで考えられなかったようなことも起こってきているわけで、そういう意味では政府一人ではできない時代になっているということをみんなにわかってもらうことが大事ではないかと思います。

過去の問題を改革するのはフィードバック政策というわけですが、イノベーション 25 というのは、未来にターゲットを定めて、今を改革するわけですから、それはフィードフォワード政策というわけです。やや大げさですが、これは明治以来、初めての画期的な試みで、正しいことだと思います。このことを国民に知ってもらうためには、将来イノベーションを進める法的枠組みを考えて、国民の間の議論を惹起する必要があると思います。

中間とりまとめには特に若者に対する支援が重点的に書いてありますし、教育については国際化が大学では必要であるといっております。それから、環境とかエネルギーを使った科学技術の外交というものも提案しています。この点、未来に向かって今を解決するというのは、国民もなかなか理解しにくいと思いますので、是非こういうことは国民の間で大いに議論をしていただきたいと思います。

(安倍内閣総理大臣入室)

黒川座長 ただいま安倍総理にお越しいただきました。ありがとうございます。それでは、私の方から中間とりまとめのポイントを説明させていただきます。

総理と高市大臣から命を受け、イノベーション 25 戦略会議の座長として、これまで 8 回の会議を開催し、本日中間とりまとめを出させていただきました。

中身につきましては、詳細は本日の報告書にまとめてございますが、概略として、短期的な課題に目を奪われることなく、20 年後の日本と世界を見渡す。更に 2025 年の日本の姿を幾つか例示をし、それを実現するための解決すべき課題を抽出する。更に

それを整理し、たくさんの方の御意見を伺いました。更にイノベーション推進の基本戦略、早急に取り組むべき政策課題の提示という構成になっております。

基本戦略、政策課題についての基本的な考えは、総理のお考えも所信方針演説、あるいは予算委員会等でも伺っているところではありますが、科学技術のイノベーション、それからイノベーションを起こしやすいような社会システムを問いかける。更に最終的にはそういうことをするような人たちをどうやって育てていくかということ、一体的に推進したいということが一つ。

国民一人ひとりの、そのような社会への意識の改革、更にオープンでどこでも通じやすいユニバーサルなシステムの構築、日本と世界の生活者の視点に立脚したという提言になっております。

この場で一言申し上げさせていただきますと、イノベーションといっても一朝一夕に出るわけではないわけですが、今では皆さんが普通にEメールを使っているなどというのは10年前では考えられないことでありまして、皆さんが携帯電話を使っていることも10年前はほとんど考えられないことでもあります。どうしてそういうふうになったのかということを考えてみれば、20年後の世界にはどういうことが起こるか予想もできないとも思われますが、それについては科学技術もさることながら、非常にダイナミズムに富んだ社会をつくっていくこと、またそのような社会をつくっていくという人たちを一人でも多くつくっていくということが大事なのではないかと思えます。

そういう意味では、早急に取り組むべき政策課題としては、まず特に次世代、若者への思い切った投資をしようということでありまして、大学という場の改革は待たないではないかということ。3つ目は、日本が非常に強いところは、世界の環境・エネルギー問題や、地球の温暖化対策などですが、そのような課題への日本の貢献を経済成長のエンジンにしつつ、国際貢献の根幹に据えていこうということも書いてございます。今後、5月末に向かってとりまとめていこうと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたしたいと存じます。

安倍内閣総理大臣 本日のイノベーション25の中間とりまとめに当たりまして、一言ごあいさつを申し上げたいと思えます。昨年10月から2025年の社会の姿と、目指すべきイノベーションについて御議論をいただいたわけでございます。今までそうした取組みは、政府として行ったことはなかったわけでございますが、初めての取組みに皆さんチャレンジしていただいたわけでありまして。

私は就任以来、イノベーションなくして成長はないと申し上げてまいりました。イノベーションによって初めて日本は成長していく。これはただ単に経済という側面から見るだけではなくて、やはり成長によって、またイノベーションによって成長し、それで初めて私たちの生活が豊かになって、社会が豊かになっていかなければならな

いと考えるからであります。

さまざまな壁を取り除いていくためにも、このイノベーションは必要なんだろうと思います。年齢の壁あるいは性別、また障害の有無、そうした壁を取り除いていくためにも、私はイノベーションが大切なんだろうと思うわけではありますが、そうした観点から御議論をいただきまして、今回こうしておとりまとめをいただきました。本当にお忙しい中、精力的に御議論をいただきましたことに厚く御礼を申し上げたいと思います。

イノベーションがたゆまなく創造され、夢と可能性が広がる国づくりを強力に進めていきたいと思っておりますが、そのためには政府が力強く政策を実行しなければ実現は不可能であると認識しております。

その意味で、中間とりまとめでも強調されました3点、次世代を担う若者への思い切った人材投資、知の拠点である大学を世界に開き、競争力を高める改革、そして環境・エネルギーをてことした成長と国際貢献への取組みは、極めて重要であると考えております。

今後、総合科学技術会議、経済財政諮問会議等との連携・協力により、更に具体化し、5月末までに最終とりまとめを行っていただきたいと思っております。

それを基に長期の戦略指針「イノベーション25」をまとめ、来年度の骨太方針に反映させてまいります。委員の方々には、引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。

またこの中間とりまとめを踏まえ、国民一人ひとりのイノベーションについての理解と関心が高まるよう、幅広く広報も行いたいと考えています。私も日本のイノベーションの現場を肌で感じるため、医療や工学など世界最先端のレベルにある研究現場を視察したいとも考えておりますので、どうぞまた今後ともよろしくお願ひいたします。

高市大臣 まず黒川座長を始め、7人の委員の先生方の御尽力に心から感謝を申し上げます。今日は、寺田委員が残念ながらお見えではないですけれども、それぞれの先生に大事なお時間を割いていただいて、1回ずつの会議は2時間以上に及びましたが、熱心な御議論をいただきまして、ありがとうございました。

そしてまた日本学術会議のたくさんの学者の先生方にもお知恵をいただきました。また、文部科学省からは、デルファイ手法による調査の結果もいただきましたし、関係省庁にも大変なお力添えをいただきました。今までの政府の中での研究のストックを無駄にはしたくないという思いから、ご協力をいただきました。

9月29日に総理から御指示をいただきましたとおり、技術革新だけではなく、これを国民生活にきちっと還元できる仕組みをつくるんだという非常に大きな仕事でございますが、たくさんのお知恵が出てきたと思います。

これからが結構大変でございます。あと3か月でロードマップづくりということで

ございます。

1つは、喫緊の課題として洗い出したもの、それから基本戦略として挙げたものの一つひとつを、更に具体的な政策としてピックアップした上で、社会制度、システムの改革も含めた戦略的なロードマップをつくっていかねばいけません。

そしてまた今日、大田大臣とも経済財政諮問会議との連携について、短い時間でしたが相談をいたしました。今後、経済財政諮問会議との連携、それから総合科学技術会議も大変なお力添えをいただきますけれども、早速、来年度から初年度でございますので、総合科学技術会議のSABC付けですとか、少し先ですが第4期の科学技術基本計画などとも連携しなければいけません。当然骨太の方針にも反映させたいと思います。そのほかに、子どもと家庭を応援する日本重点戦略会議で働き方や企業の意識の変革なども議論されておりますし、男女共同参画会議でワーク・ライフ・バランスも検討されております。それから、私プラス3閣僚によります、キャリア教育の閣僚会議もございます。また、文部科学省の方で大学改革や学習指導要領なども検討していただかなければなりませんし、環境外交といいますと外務省になります。本当に政府一体となって取り組むべき課題についてのロードマップをつくらなければいけませんので、明日からまた先生方と一緒に頑張りたいと思います。

最後になりましたが、送ってくれる原稿が27時現在という具合に、夜中までみんなで頑張ってくれた特命室のスタッフの皆さんにも敬意を表し、そしてまた総理にもたびたびの御指導に感謝を申し上げまして、また頑張ることを誓い合いたいと思います。どうもありがとうございました。

(安倍内閣総理大臣退室)

黒川座長 今日会議は、こういうことで中間とりまとめとさせていただきたいと思います。先ほど総理に申し上げたとおり、また高市大臣がおっしゃったとおり、5月末の最終とりまとめに向かって、これはまだ次の本番の始まりということでございます。具体的な戦略の提言ができるように検討していきたいと思っておりますので、また委員の先生方には、これからもよろしくお願ひしたいと思ひます。

(2) その他

黒川座長 次の会議その他につきましては、また事務局から追って御連絡します。それでは、時間となりましたので、一応ここまでとしますが、この後の議事その他については、これから内閣府に入りまして、私と高市大臣とで記者会見を行う予定になっております。

なお、御相談申し上げたところですが、エグゼクティブサマリーにつきましては、

英語版も日本語版の2、3日遅れになるかもしれませんが、ウェブサイトに出すほか、印刷して、各サイエンサー、在外公館などにも配っておこうと思っております。

以上をもちまして、本日のイノベーション25戦略会議を閉会したいと思います。御協力ありがとうございました。

3．閉会